

第2学年技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

指導者(家庭領域専攻) ○○○○

(指導担当教員 ○○○○)

1. 日時 ○○年9月 19日(金曜) 第2校時 (9:45~10:35)

2. 学年・組 第2学年1組 計 40名

3. 場所 第2学年1組 教室

4. 題材名 幼児の生活と遊び

5. 題材の目標

- ・簡単なおもちゃを工夫して作ることを通して、幼児の心身の発達の特徴と遊びの役割について理解する。(知識・技能)
- ・遊びを助けるおもちゃや安全な環境について、問題点を見出して課題を設定して適切に表現するとともに、これらのことに関して解決策を構想し解決することができる。(思考・判断・表現)
- ・幼児と周りの大人との関わりや遊びの意味など子どもが育つ環境について考え、地域社会に参画し主体的に実践しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

6. 題材について

①教材観

高度経済成長期頃までの日本の社会では、親族や近隣の幼児の世話を小学生や中学生が行うことが多かった。年長の子どもの年下の子どもの世話をすることにより、幼児の考え方や行動の特徴が理解され、幼児との関係をどのようにして築いていくかを学んできた。また、幼児の世話をする中で、自分の幼児期について振り返ったり、人間の成長・発達やそれにかかわる家族や地域の役割についても理解したりすることができたのである。

しかし、現在では、少子化による幼児の減少に加え、学校や塾での学習が優先され、小学生や中学生が幼児の世話をする機会は極めて少ない。このため、幼児を含む子どもの成長発達や子どもの生活について、学校で学習することが以前にも増して重要となっている。

また、幼児期を振り替える学習は、この時期の中学生は親や教員など周りの大人から精神的に自立しようとする時期であるため、自分の成長過程を確認し、周りの大人からどのような支援を受けてきたのかを理解し、自立への一歩となる重要なものといえる。

本題材では、生徒が幼児の生活について学び、その中でも特に遊びの役割(幼児の多様な能力の発達に遊びが深く関わり、遊びは生活の一部であるとともに学習の場であることなど)を理解するとともに、そこからさらに、幼児と周りの大人との関わりや、子どもが育つ環境についても考えることができるようになることをねらいとしている。

②生徒観

2年1組の生徒の多くは技術・家庭科(家庭分野)の学習に積極的に取り組んでいる。快活な生徒が多く、友人関係も良好である。特に、男子生徒は学級の雰囲気をもりこみ、全体を引っ張っている。グループ活動では積極的に意見を出し合うなど、意欲的に取り組む。

本題材についてみると、生徒の多くは幼い兄弟姉妹がおらず、日常生活で幼児と触れ合う機会ほとんどない。このため、幼児とどのように接したらよいのか、わからない生徒が多いと思われる。しかし、普段の授業の様子から、積極的に自分の幼児の頃の思い出や周囲の人々との関係を話し合い、幼児の生活や遊びについて考えることができる生徒は多いと考える。加えて、他教科の実習授業の様子からおもちゃの製作活動は積極的に取り組むと思われる。

③指導観

第一次では、初にグループごとに幼児期の遊びについて振り返り、遊びの種類や誰とどこで遊んでいたのか、その中で身に付いたことなどを具体的に話し合い、その結果をまとめさせる。次に、クラス全体で発表させ、遊びの種類や発達段階によって遊びが変化すること、遊びの中で身に付く能力(運動能力、言葉、情緒、社会性)について確認し、幼児にとっての遊びの意味を理解させる。

第二次では、簡単なおもちゃを製作させる。初に現在のおもちゃと昔のおもちゃを比較し、高価でゲーム性の強い現在のおもちゃに対し、昔のおもちゃは、形や構造が簡単で自分たちで工夫することができ、周りの大人や仲間と一緒に遊べるなど優れた利点があることに気づかせる。そして、それらがよいおもちゃの条件に適合していることをおさえる。次に、ぶんぶんゴマの製作を通して、良いおもちゃの条件や遊びを支える環境について理解させる。

第三次では、幼児が実際に遊ぶところを撮影したビデオを視聴し、気づいた点を記録し、グループでまとめ発表させる。ここでは、発達段階によって遊びが変化すること(一人遊び、平行遊び、象徴遊び、ルールのある遊び)をおさえ、遊びと発達の関係について理解させる。そして、遊びが幼児の発達を促し、遊びによって、協調性や自己主張、自己統制力、競争心などの社会性を身につけていくことを理解させる。

7. 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・ 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。	幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

8. 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価基準・評価方法
第一次	1	・ 幼児の遊びについて関心をもつとともに、幼児にとっての遊びの意義を理解する。 ・ グループごとに幼児期の遊びについて振り返り、その内容を話し合い発表する。 ・ 遊びの種類やその変化、身につく能力について確認し、遊びの意味を理解する。	・ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ・ グループごとの話し合い活動や発表に用いたワークシート。 ・ 行動観察。
第二次	1 本時	・ 簡単なおもちゃの製作を通じて、幼児の心身の発達の特徴と遊びの役割について理解する。 ・ 幼児と周りの大人との関わりや遊びの意味など子どもが育つ環境について考え、地域社会に参画し主体的に実践しようとする。 ・ 現代のおもちゃと昔のおもちゃを比較し、後者の利点を理解する。 ・ ぶんぶんごまの作製を通して、良いおもちゃの条件や遊びを支える環境について理解する。	・ ぶんぶんごまを作製できる。 ・ 昔からのおもちゃの利点について知り、良いおもちゃの条件を理解している。 ・ 遊びを支える環境について理解し、それらの課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・ 作製した作品。 ・ ワークシート。 ・ 行動観察。
第三次	1	・ 幼児の遊びと発達の関係について理解する。 ・ 遊びが幼児の発達を促し、遊びによって社会性を身につけていくことを理解する。 ・ 幼児が実際に遊ぶところを撮影したビデオを視聴し、気づいた点を記録し、グループでまとめ発表する。	・ ビデオの視聴を通じて、幼児の遊びと発達の関係について理解している。 ・ ビデオの内容について、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・ ビデオの内容を記録したワークシート。 ・ 行動観察。

9. 本時の学習

①本時の目標

- ・ 簡単なおもちゃを工夫して作ることを通して、幼児の心身の発達の特徴と遊びの役割について理解する。（知識・技能）
- ・ 幼児と周りの大人との関わりや遊びの意味など子どもが育つ環境について考え、地域社会に参画し主体的に実践しようとする。
（主体的に学習に取り組む態度）

②本時の展開

（次ページに記載。）

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援 (教師の活動)	評価方法
導入 3分	1 前時の学習の復習 ・遊びの意味について考える。	○「前回出てきた遊びをすることで幼児はどのようなことができるようになりましたか。」 ・遊びの種類とその意義について確認させる。	
展開 42分	おもちゃの役割について考えよう 2 本時の内容を知る。 ・昔のおもちゃと今のおもちゃの特徴を考える。 ・ワークシートに記入し発表する。 ・今のおもちゃはファミコン、ゲームなど ・昔のおもちゃは凧揚げ、コマ、あやとりなど ・昔は外で遊んだり、みんなであそべる単純なものが多かった。 ・今は一人で遊んだり、高価なものが多い。 3 幼児にふさわしいおもちゃについて考える。 ・ワークシートに記入する。 ・色々な遊び方ができるもの。 ・適正な価格のもの。 ・安全で丈夫なもの（STマーク） ・発達段階にふさわしいもの。 ぶんぶんゴマをつくろう 4 ぶんぶんゴマを作製する。 ・製作方法の説明を聞く。 製作方法 ・スチレンボードをコマの形に切る。 ・タコ糸を通す穴を開ける。 ・コマに色をつける。 ・タコ糸を通す。 5 出来上がったコマを回して遊ぶ。 ・幼児と遊んでいる時に注意する点を考える。 ・考えたことをワークシートに記入する。 ・おもちゃについてわかった点をワークシートに記入する。 6 遊びを支える安全な環境について考える。 ・ワークシートに記入する。 ・発表する。 ・遊びには適した場所や安全に遊べる環境が必要であることを理解する。	○「今回はおもちゃについて学習します。ワークシートに昔からあるおもちゃと今のおもちゃの種類と特徴を記入しなさい。」 ○「今のおもちゃと昔のおもちゃの違いはどのような点ですか。」 ・昔のおもちゃの利点を考えさせる。 ○「幼児にふさわしいおもちゃの特徴をワークシートに記入しなさい。」 ・前回の学習と結びつけて考えるように指示する。 ○「これからぶんぶんゴマを作ります。」 ・プリントと材料を配布する。 ・作製方法を説明する。 ・用具を忘れた生徒には貸し出す。 ・刃物の取り扱いに注意させる。 ・中心を正確に出す、丸型以外の形にする場合は角を丸くするなどの注意を伝える。 ・机間指導をし、個別指導を行う。 ○「幼児と一緒に遊んでいる気持ちになってぶんぶんゴマを回してみましょう。回せたら、わかったことをワークシートに記入しなさい。」 ・製作で工夫した点を確認する。 ・幼児の視点から考えるように指示する ○「幼児が安全に遊ぶためにはどのような配慮が必要ですか。」 ・安全なおもちゃ、安全な場所の確保、危険を回避することを理解させる。	・おもちゃの種類と特徴について理解しているか。 ・ワークシート ・行動観察 ・幼児にふさわしいおもちゃの特徴について理解しているか。 ・ワークシート ・行動観察 ・ぶんぶんゴマの作製方法を理解し、自分なりの工夫をして作製できているか。 ・作品 ・行動観察 ・幼児の視点から考えることができているか。 ・ワークシート ・行動観察 ・遊びを支える安全な環境について理解し、それらの課題の解決に主体的に取り組もうとしているか。 ・ワークシート ・行動観察
まとめ 5分	7 まとめ ・ワークシートを完成させる。 ・次時の内容を聞く。	○「ワークシートのすべての空欄に記入し、わかったことを確認しなさい。」 ○「次の時間は遊びと発達について学習します。」	・ワークシートを完成し、内容を理解したか。 ・ワークシート

③板書計画

遊びを支える

1 おもちゃの役割について考えよう

* 昔からのおもちゃ

- ・ 凧、コマ、あやとり、折り紙

- ・ 特徴：外で遊んだり、みんなで遊べる単純なもの

* 今のおもちゃ

- ・ ファミコン、ゲーム、ビデオ、キャラクター商品

- ・ 特徴：一人で遊んだり、高価なおもちゃ

2 幼児にふさわしいおもちゃ

- ・ 色々な遊び方ができるもの

- ・ 適正な価格のもの

- ・ 安全で丈夫なもの（STマーク）

- ・ 発達段階にふさわしいもの

3 ぶんぶんゴマをつくろう

4 遊びを支える環境

- ・ 安全なおもちゃ

- ・ 遊びに見合った広さがある

- ・ 自動車、自転車などが入ってこない

- ・ 段差や溝がない

- ・ 家具、コードなど危険なものがない



安全でなければならない

④準備物

ワークシート、製作プリント、スチレンボード、タコ糸、コンパス、カッターナイフ、はさみ、カッターマット

⑤配布資料

遊びを支える

おもちゃの役割

昔からのおもちゃと今のおもちゃの種類と特徴を考えてみよう。

	種 類	特 徴
昔からのおもちゃ		
今のおもちゃ		

幼児にとってふさわしいおもちゃについて考えてみよう。

ぶんぶんゴマを作ろう。

製作しているときに気づいたこと、工夫した点をまとめよう

幼児と一緒に遊ぶ時に、気をつけなければならない点についてまとめよう

遊びを支える環境

幼児が安全に遊ぶことができる環境を考えてみよう

わかったこと、気がついたこと、感想など

2年家庭科 幼児の生活と遊び 番外編

ぶんぶんゴマを作ろう！

＜材料＞ スチレンボード タコ糸

＜用意するもの＞ カッターナイフ カッターマット コンパス 定規 色鉛筆 色ペン

＜作り方＞

①形を決めよう！
スチレンボードをコマの形に切る。

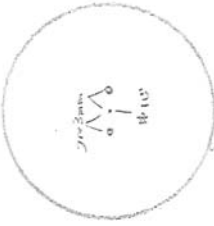
ポイント！

- 円が一番簡単に回るよ。
- 直径が小さいほうが回しやすいよ

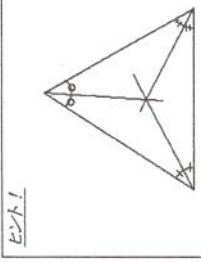
☆ 自信のある人は円以外（三角形や他の図形）を試してみよう！

②タコ糸を通す穴を開けよう！
切り抜いたコマの中心を出し、中心から左右に2～3mmのところに一つつつ穴を開ける。

ポイント！



ポイント！



三角形の中心の出し方
角の二等分線の交点
その三角形の中心

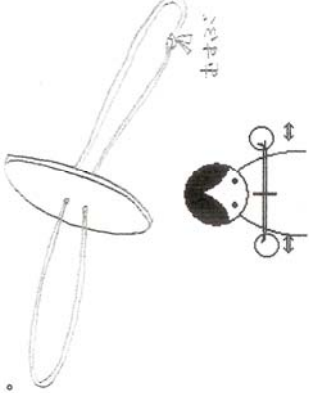
③コマに色をつけよう！
コマに色ペンや色鉛筆で好きな色、模様をつける。

ポイント！

○ シンプルなほうが回した時きれいだよ

④タコ糸を通そう！
開けた二つの穴にタコ糸を通してわっかにする。

⑤回してみよう！
タコ糸を両手で持って引っ張って回す。
上手く回るかな???



ぶんぶんゴマ